

## シンポジウム

# 「自然と人間のつきあい ― 食をめぐるって」

日程：2009年2月27日（金）

場所：国士舘大学梅ヶ丘校舎 34B302 教室

### 小山修三（吹田市博物館館長）

今日は人類の最初の食経済である狩猟採集・漁撈段階のお話をしたいと思います。

私が滞在したオーストラリアの北部海岸にあるアーネムランドおよび中央砂漠地域は、現在アボリジニの領土になっています。アーネムランドは、雨季は土砂降り、乾季はカラカラという極端な季節差があります。それに対して、中央砂漠は年中乾燥した環境にあります。このような、厳しい環境の中で食糧を探して歩く生活は大変なもので、基本的には広い地域を必要とします。

ここでは、アーネムランドの村の生活を紹介することにします。彼らにとってのご馳走は肉類です。とくに鳥は季節によって集中するので、若者たちが湿地に向かって鳥を撃ちに行きます。大猟だと、意気揚々と獲物を持って帰ってきます。それをキャンプ地へ持ち帰ると、女たちが、羽を筆り、火を焚き、火の中に放り込む。新鮮で捕りたてのものを料理し、熱いうちに食べるというのは理想的な食べ方ですね。他によく取るのがカンガルーですが、面白いことに「カンガルーを食べない」というタブーを持っている人もいます。

彼らは絶対に一度火を通さないと食べません。これは高温湿潤な環境のもとでは合理的な食べ方だと言えるでしょう。牡蠣やアサリのようなものもよく食べますが、動きの少ない、しかも長時間はたらく貝捕り、これは女性の仕事です。

しかし、おいしい動物性タンパク質食より大切なのはお腹を満たすデンプン食です。よく見掛けたのはニセクログワイの球根でした。また、日本でも縄文時代にドングリやトチをあく抜きをして食べましたが、アボリジニも同じように猛毒のソテツを、水にさらして食べることを知っています。ソテツの実を採ってきて、砕いて水にさらして食べる。2週間くらいかかるそうです。現在では民族学者がとくにお問い合わせをしたとき、または彼らが昔の味を懐かしむといった余裕のあるときの他は、小麦粉を使っています。

アボリジニの社会に無かったものの1つがお酒です。しかし、これが今、大きな社会問題になっています。一般に狩猟採集社会にお酒がないところが多い。貯蔵がなかったので発酵の技術が発達しなかったのでしょうか。とれたものをすぐ食べて、全部食べ終わるまで動かないという状態、それが狩猟採集の社会の特徴なのです。

アボリジニのような狩猟採集民は豊かな森に住んで、自然の恵み豊かな環境の中で生きていけるのでいいと私たちは思いがちですが、実は彼らは火という道具を使って環境をコントロールしているのです。

最近メルボルンで起きた山火事の被害が報じられていますが、彼らはFire Stick Firmingといわれるように、火をつけることで森をコントロールをしているのです。しょっちゅう火をつけていないと、燃えやすい葉がたまり、一度火がついたら、まるで爆弾が爆発するように樹冠まで炎が上がって森が破壊されてしまうのです。乾燥したこの大陸ではユーカリなどの植物は、火に強く、なかには火が付かないと発芽しないというものさえあります。オーストラリア全体が、火がないとやっていけないという感じにさえなっている。これを利用したのがアボリジニの環境コントロールの技術だったのです。

18世紀末にイギリスの植民地になって新しいオーストラリアがつくられてから、草原は牧場になり、森は伐られて農園にかえられていきました。そういう新しい食料生産の技術がそれにあった環境をつくりだしていったのです。

現在のオーストラリアでは、土着の家畜や作物がほとんどありません。牧場は羊と牛ですし、農場では小麦、サトウキビというように、全て移入された食品に頼っています。それによって、安定した食生活がおくれるようになりました。狩猟採集民としてのアボリジニは新鮮なものを食べるという理想的に見える生活をしていますが、問題は供給が不安定なことでした。それが、イギリスの植民地になったことで小麦粉、缶詰、紅茶、砂糖など基本ラインが保証されることになったのです。そういう自然とともに生きているときの大きな弱点を克服したのが、人間の牧畜や農業だったのです。

その結果、アボリジニも白人と同じような状態になっています。この私でさえスリムに見えるほどに太った、巨大な人をたくさんみかけるのです。それが心臓疾患や糖尿病などの、いわば食べ過ぎのためにおこる生活習慣病です。それはアボリジニの疾病史を見ると、初期は、らい病だとか破傷風だとか、妊婦や幼児の死亡といった古典的なものだったのですが、今では、食べ過ぎによる新たな問題が起きているのです。自然とともに生きているとき、空腹はいやだ、お腹いっぱい食べたいと思っていたのに、その夢が叶うと新しい問題が起きてきたのです。満腹とは、現代文明がもたらした悪夢と言えるのではないのでしょうか。私も食べ過ぎで、お腹もこんなにでてますが、これからエアロビクスなんかやって、美しい姿でまた皆さんにお目にかかりたいと思っています。